

平成30年 3月27日

長野市中心市街地活性化基本計画評価専門委員会
委員長 竜野 泰一 様

もんぜんぷら座在り方検討部会
部会長 岩野 彰

「もんぜんぷら座」の在り方の検討について（報告）

平成29年8月17日付け、29第156号で長野市から諮問がありました標記については、「長野市中心市街地活性化基本計画評価専門委員会」のもとに「もんぜんぷら座在り方検討部会」が組織され、そこで検討を重ねてきた結果として、下記の二点について報告いたします。

記

1) 今後の対応スキーム（案）について

当部会で検討を重ねる中で、「もんぜんぷら座」の建物の取り扱いについては、「当面の課題」と「長期的な課題」の二つの課題があり、分けて対応することが妥当であるとの検討結果を得たところであります。

「当面の課題」としては、多くの市民が施設を利用する中で、耐震化や防災設備の更新等、早期に市民の安全確保を図る必要があるということであります。

一方、「長期的な課題」としては、いずれは解体する「もんぜんぷら座」の建物敷地の活用方法について、将来の新田町交差点周辺の総合的なまちづくり構想の策定や、入居テナントの維持・再編、さらに民間活力導入の可否等、幅広い議論と検討が必要であるということになります。

当部会としましては、今後の対応スキーム（案）として、「当面の課題」については、長野市耐震改修促進計画の期間内に、耐震補強と必要最小限の防災設備の更新を実施するとともに、並行して「長期的な課題」である、新田町交差点周辺の総合的なまちづくり構想の策定等に向けた検討に着手する案を、付帯意見を添えて提案するものであります。

〈付帯意見〉

「当面の課題」については、速やかに事業着手すること、また、「長期的な課題」に対しても、来年度には検討に着手するとともに、地元住民の方々の意向を十分に配慮しながら、着実な進捗を図り、早期に「もんぜんぷら座」の敷地が有効活用されるよう、積極的に取り組んでいただきたい。

2) 新田町交差点周辺まちづくりのテーマとコンセプト（案）について

まず、「テーマ」については、「まちパレット～地域を結び、特色（いろ）を複（かさ）ねて際立たせ、賑い再生～」というものであります。

これは、新田町交差点が中心市街地のほぼ中央に位置することから、中心市街地の特色あるエリアを分断することなく、相乗効果が期待できるよう、結びつけるまちづくりを行い、これによって、交通の結節点としてだけでなく、門前町としての歴史と現代の文化をミックスさせる結節点となる期待を込めたものであります。

さらに、これまでの取り組みによって蓄積された、まちづくりの資源を有効に活用し、持続可能な発展を目指す中で、市民ニーズが高く、中心市街地に必要な都市機能の導入も図られることを期待するものであります。

加えて、将来のさらなる少子高齢化に対応した「歩いて暮らせるまちづくり」の実現に向け、回遊性を高めて中心市街地に賑いを再生するとともに、限られた土地を有効に活用するため、敷地個々の目線ではなく、地域一体で役割を考え、都市の再生を検討していただきたいと考えております。

また、今後多様化が一層進む市民の要望だけでなく、来街者からの目線も含めた取り組みによって、常に変わっていくニーズにフレキシブルに対応できるまちづくりを進めていただきたいとも考えております。

次に「コンセプト」については、賑いを創出する場として、「市民対象」の場と「来街者対象」の場、そしてこれらが交流する場、それぞれに求められる機能や役割を整理いたしました。

その中でも、市民を対象とする、学びや子育て、日常生活、あるいは回遊拠点の場としての機能を有するようになることが最も重要と捉えております。

具体的な取り組みとして、近隣の市民に対しては、生鮮食料品や日用品の小売店の確保、郊外からの市民に対しては、歩行者優先の道路環境整備と使いやすい回遊目的の駐車場の利用促進、市民共通で、複合型住宅の誘導による定住人口の増加や子育て支援等が必要と考えております。

一方、観光等で訪れる来街者を対象とする、情報提供や表参道の憩いの場としての機能を担うためには、地域資源に根ざしたインバウンドの獲得や善光寺表参道にふさわしい都市景観づくりにつながる取り組みが必要であります。

加えて、市民と来街者の交流の場としての役割を果たすためには、市のメインとなるシンボリックな都市空間の構築とともに、最新の情報発信の場の整備が求められるところであります。

当部会としましては、新田町交差点周辺まちづくりのテーマとコンセプト（案）として、「長期的な課題」である新田町交差点周辺のまちづくり構想を検討していただく際の参考となるよう、提案するものであります。